

国際競争力を高めるための公共デザインの創造 ニューヨーク市 チーフ・アーバンデザイナー インタビュー(その2)

ニューヨーク事務所

前回に引き続き、ニューヨーク市のチーフ・アーバンデザイナー、アレックス・ウォッシュバーン氏のインタビューをレポートします。今回は、歩行者の目線を大切にされた都市計画作り、手描きのデッサンをツールとした住民参加の手法など、市民の幸せを創造するための公共デザインに光を当てました。今回は、アーバンデザインが作り出す都市の競争力の向上について、レポートします。



アレックス・ウォッシュバーン氏

持続性のある都市をつくるために

都市の持続性を保つためには、インフラをより良くするだけでなく、より良い地域コミュニティの創造と豊かな緑の公共スペースを作ることが重要です。20世紀初頭に伝染病が流行した際、下水道整備だけではなく、人口密度を低くするための規制を同時に行うことで、問題の解決に至り、地域全体の生活の質が向上しました。都市計画を策定する際は、目の前の狭いゴールだけを見るのではなく、その計画実現後の波及効果も考えるべきなのです。当初の目標達成以外の分野で事業の効果が現れることもあります。単なる公園整備にとどまらない観光効果、治安の向上、地価の上昇など、多くの副次的効果をエリアにもたらしたハイラインパークの成功は、それを如実に表している成功事例だと言えるでしょう。

アーバンデザインが生活の質「クオリティ・オブ・ライフ」を高める

マイケル・ブルームバーグ市長は、都市機能を向上させると同時にニューヨーク市民の生活の質を高めることによって、国際競争力を高めようとしています。これは、ニューヨーク市長期計画 (PlaNYC) の序章に端的に次のように表されています。

「生活の質を求めることは、もはや漠然とした優雅さを意味するものではない。企業のリーダーがどこに会社を移転させ、あるいは拡張するのかを決める際の具体的な要素だ。すなわち、あらゆるところに住む場所の選択肢のある社会において、才能ある労働者がどういったところを選ぶのか、ということである。素晴らしい公園や空気は、余計な飾りとは考えられていない」

生活の質の向上は、ニューヨーク市に人々を呼び寄せ、それが税収、経済効果等をもたらす、税収による経済効果がより高い生活の質の充実をもたらします。このようなヴァーチャス・サークル (好循環) を生み出そうという宣言なのです。1960 年～70 年代にニュー

ヨーク市で起こっていた、ヴィンヤスサークル（負の循環）とはまったく逆の流れになります。

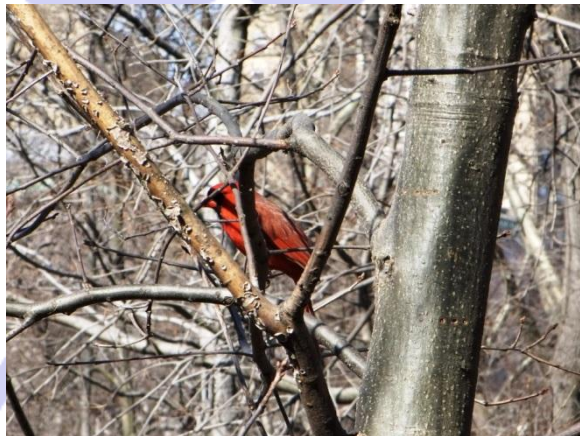
歴史的にニューヨークの都市計画には、公共スペースの量を圧倒的に増やしたロバート・モーゼスと、量よりも質を重視したジェーン・ジェイコブスという2人のアーバンデザイナーが大きな影響を与えたといえます。PlaNYC で、「全ての市民が住宅から徒歩 10 分以内で公園に行けるようにする」という新たな目標を掲げて、計画を推進しているニューヨーク市は、公共スペースの「量」と「質」の両方を手に入れ、都市としての国際競争力を高めようとしています。

そもそもニューヨークのような大都市にあって、セントラルパークのような広大な敷地を公園として確保したことは、世界の大都市において類例を見ない英断だといえます。この公園を歩けば、まるでどこかの森の中を歩いているような気分になります。実際に 200 種類以上の鳥を見ることができるといわれるほど豊かな自然が広がっているのは、驚愕に値します。

次期選挙で、マイケル・ブルームバーグ市長の任期は終了します。都市計画は、「政治」「財政」「デザイン」の3つによって影響を受けますが、その中でも「政治」が最も強力な影響を与えるとアレックス氏は語っていました。まだ見ぬ次期市長の下でも、市民生活の質の向上を目指す現状路線が引き継がれることを期待します。



春の土曜日には、約20万人もの人が訪れる
セントラルパーク



セントラルパークにはフクロウなども生息し、
バードウォッチャーを惹きつけている

(鷲岡所長補佐 和歌山県派遣)